

日本国内各地の災害被災者の支援や被災地復興のための支援

## 「『語り人キャラバン』の結成と訪問事業～福島県の3.11複合災害を次世代に繋ぐ誰にも分かる語り人活動の展開～」事業

### 東日本大震災の記憶がほとんどない高校生が語り人となって防災や命の大切さを伝える

「人の世に起こったできごとは、人によって語らなければならない」を合い言葉に、東日本大震災や原子力発電所事故による複合災害の様相を、人の語りによって伝え続けてきた。高齢化で「語り人」が減るなかで、若い世代である高校生たちが「語り人キャラバン隊」を結成し、紙芝居の上演を通して伝承活動に取り組んだ。



高校生が幼児・児童に紙芝居を読み聞かせる「語り人キャラバン隊」



### 大地震と放射能漏れ事故に見舞われた福島県の状況や課題を語る「語り人」

2011年3月11日に起きた東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故という複合災害により、甚大な被害を受けた福島県富岡町。その現状と課題を、NPO法人「富岡町3.11を語る会」は全国各地に避難した住民や避難先地域の人々、震災からの復興に関心を持つ人々などに対して広く語り伝える「語り人」の事業を行ってきた。

これまで「震災の話を聞きたい」という依頼に応え、日本国内をはじめ、ヨーロッパなどの海外での語り人の公演、町民の避難先である郡山市での「人の駅 桜風舎」の運営、語り人の表現力向上とコミュニティ形成を支援するための活動（演劇キャンプ、富岡表現塾など）、朗読劇の

上演、資料や広報誌の作成などを実施してきた。語り人活動は、2015年4月～2024年2月までで1,507回行い、延べ65,474名が参加した。

さらに、2023年にPOSCの助成を活用し、高校生が幼児・児童に紙芝居を読み聞かせる「語り人キャラバン隊」を結成し、活動する取り組みを行った。東日本大震災の被災から13年となるが、福島県ではいまだ復興の途上であり、その現状と課題は、未来への教訓として地域や世代を超えて語り伝えていかなければならない。大震災の記憶がない世代と言われる高校生が、さらにその年下の世代となる幼児や児童に紙芝居を読むという伝承活動を通して、「防災」「ふるさと」「命」の大切さを自分ごととして考える人間が育ち、持続可能な人間社会が実現するとの考えの下、活動を行った。

### 紙芝居によって震災を語り伝えることで高校生が課題発見や自己実現の一步に

活動の実施にあたっては、まず、語り人キャラバン隊のメンバーを募集するために、福島県内の県立高校に募集チラシを配付・送付することから始めた（6月1日～30日）。さらに、専門の講師を招き、紙芝居を読み聞かせるためのワークショップを行った。7月～3月にかけて計5回行われたワークショップには、あさか開成高校、ふたば未来学園高校に在籍する、延べ約60名の生徒が参加した。

紙芝居の実演は、富岡小学校（8月3日）、とみおかアーカイブ（11月19日／観客73名、2月11日／同79名、3月3日／同49名）、東京お台場「魚ジャパンフェス」（11月25日～26日／同約1,000名）、富岡演劇祭（12月10日／同30名）で実施された。

富岡小学校児童のサマースクールでは、集中力がなく、人の話をあまり聞かない児童が、紙芝居を読み始めると真ん前に座り、質問に答えたり、感想を言ったりすることで、周囲も楽しく盛り上がり、紙芝居によるコミュニケーションが生

まれた。また、11月の魚ジャパンフェスでは、富岡町ブースにおいて避難生活の続く町民の思いをテーマにした同法人オリジナルの紙芝居を高校生が読むと、会場来場者が立ち止まり、聞き入っていた。なかには涙を流して、「がんばって!」と声をかけてくれる人もいた。

震災を語り伝える、語り継ぐということは、人間が負の体験を知恵に変えてプラスの遺産として、明日につながるものである。伝承活動は、それを実施する重要な活動であり、世代の継承は必須の課題と言える。今回、語り人キャラバンを高校生で結成し、語り人となって多くの人に伝承できたことは、彼ら自身にとって、課題の発見や解決への挑戦となり、自己実現の一步ともなった。

#### 福島県遊技業協同組合連合会より

東日本大震災の記憶の風化が叫ばれるなか、当時の状況や、いまだ復興途上にある福島県の現状や課題を伝える伝承活動を若い世代が担うことの大切さを学びました。



語り人キャラバン隊のメンバーを募集するチラシ



専門の講師を招き、紙芝居を読み聞かせるためのワークショップを実施

助成団体: 特定非営利活動法人 富岡町3.11を語る会

<https://www.tomioka311.com/>



#### 世代を超えて東日本大震災を語り継ぐ伝承活動に取り組む

伝承者（語り人）の高齢化から伝承活動の危機が叫ばれるなか、高校生が語り人キャラバンを結成して、活動することができました。紙芝居という日本独自の文化を学びながら、演じ、読むことで、伝わる喜びや伝えたい意欲とともに、多世代にメッセージを送ることができました。継続して活動が進められるよう、ご助成をいただければ幸いです。

特定非営利活動法人 富岡町3.11を語る会  
代表理事 青木 淑子さん